

【平成 29 度 自己評価結果報告書】

平成 30 年 3 月作成
飯倉幼稚園

1. 本園の概況

1 組織の目的

1) 学園の経営理念（ポリシー）

時代の流れを的確につかみ、未来を担う子どもたちの健全な育成を目指し、満足できるサービスを提供することにより、地域社会に貢献してまいります

2) 学園の経営目標（ビジョン）

地域に欠かすことのできない 100 年続く学園の想設

3) 学園の経営方針（ミッション）

1. 「子ども」第一主義で行動する
2. 「教育」を通じて子どもの成長を促す
3. 「保護者」のニーズを的確に受け留める
4. 「人的・物的環境」の整備徹底を行う

2 組織の目的

1) 幼稚園の教育理念（教育目的）

音楽を通じて情操教育とたくましい体力づくりで調和のとれた教育をめざします

2) 幼稚園の教育目標（基本方針）

自ら律し、自ら考え、他人を思いやることができる
真の「生きる力」をもった人物を育成すること

3) 幼稚園の教育方針（教育内容）

1. 「体育」で健康な身体を育む
2. 「音楽」で豊かな感性を育む
3. 「ティーム保育」で道德性の高い心を育む
4. 「態度教育」で規範意識の高い社会性を育む

今後重点的に取り組む目標、計画

幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中、長期のビジョンを明確化し、幼稚園が今後担う役割について検討する。

2. 昨年度の課題についての取り組み

課題 1	具体的な取り組み方法
指導計画について	今年度から体育教室同様に音楽教室も週 1 回固定した曜日でカリキュラムを行うこととする。年間カリキュラムを見直し、それを基に月案、週案をたて、保育を行う。
実際の取り組み	年長は木曜日、年中は火曜日、年少は月曜日と固定曜日を音楽教室とし毎週取り組むことで、その時期に適した内容を積み重ね、個人の成長に繋がりがみられた。また、年度末に開催される音楽発表会では、「日々の保育の結果が行事に」という園の目標に沿った保育を行うことができた。

課題 2	具体的な取り組み方法
教師の資質 指導向上に向けて	<p>園内研修の年間計画を作成していく。</p> <p>○月 1 回の園内での職員研修を計画していく。経験年数も学年も違う 2 つのグループを作り少人数での研修会にすることで、多くの会話を生み出していけるように設定し、職員同士の意見交換の場としていく</p> <p>○夏休みの研修発表会をすることで、受けた研修を他の職員に伝え、さらに自分のものとし、職員全員で共有することができる。さらに実技等は、すぐに現場で使えるように、全員で習得していく</p>
実際の取り組み	<p>○園内研修の年間計画を作成。(資料 1) 主任研修で受講した内容をもとに、来年度より変わる「幼稚園教育指導要領」について研修を行った。研修後は報告書を作成し、記録するとともに振り返りに役立っている。(資料 2)</p> <p>○夏の研修発表を実施。(資料 3) 夏休み期間中に多くの研修に参加することから、その内容をインプットし、他の職員にアウトプットすることで自分自身の学びに繋がった。また、研修発表を聞いた職員にとっても受講できなかった研修内容を知ることにつながり、よりよい保育実践ができた。</p>

3 評価項目および取り組み状況

評価分類		取り組み状況
保育の計画性	園の教育理念・教育方針の理解	○園の教育理念や教育方針を常に理解し、教職員で話し合い園の目指す幼児の姿を具体的にイメージしながら日々の保育にあたっている。
	指導計画の作成	<p>○園の方針を指導計画や保育に生かし、教育要領や幼児の実態等を元に考えて作成している。</p> <p>○長期の指導計画は毎年見直しを行い、また短期の指導計画は幼児の実態に常に対応できるような順応性のあるものになっている。</p>

		○総合的な活動ができるように考慮して作成している。
	環境構成	○ 指導計画に基づいて幼児が主体的に関わりたくなるようにまた安全面に考慮して環境構成をしている。 ○ 楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる、時間や環境の構成に努めている。 ○ 季節の変化や、幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている。
	保育と計画の評価と反省	○ 自分の保育の評価と反省を日々、保育日誌として記載し、月ごとに職員で、反省・評価を行っている。 ○ 評価・反省は次の保育を見直す材料となるよう反省ノートとしてすぐ開示できる。
保育の在り方 幼児への対応	健康と安全への配慮	○ 幼児の体調には常に気を配り体調が悪そうな幼児には安静や検温など適切な処置を行い家庭に連絡を入れるようにしている。 ○ けがや事故には特に気を配り、危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり考えたりして気づかせるように配慮している。 ○ 園内に危険な箇所がないか、遊具は安全か毎週点検を行っている。
	幼児のみとりと理解	○ 一人ひとりの幼児をよく理解する為には、観察、予測、推察が大切であることを理解し自分の一方的な感じ方や考え方で決め付けないう心がけている。
	指導とかかわり	○ 幼児にあわせて同じように動いたり同じ目線にたってもものを見つめたりするように心がけている。 ○ 遊びの援助者であることを理解し幼児にヒントやアイデアをすぐに提供できるようにしている。 ○ 幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有している。 ○ 異年齢児とのかかわりがもてるように、チーム保育（たてわり保育）を取り入れている。

教師としての 資質や能力・ 良識・適性	専門家としての 能力・良識・義務	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園教諭としての専門知識や技能を常に身に付けていけるよう年間を通しての研修や講習会に参加している。 ○ 良識ある社会人としての心がけを忘れない。
	組織の一員としての 在り方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
保護者への対応	情報の発信と受信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連絡帳を利用して、幼児の様子を必ず月に1度は知らせている。また日々の様子について特記すべきことは必ずその日に連絡をとるようにしている。 ○ ホームページの充実の本園の誇れるところであり保護者からも喜ばれている。 ○ 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、内容によっては、職員全体で検討し、共通理解の上で対処している。
研修と研究		<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じての研修、および園児夏休み中に集中研修をうけている。 ○ 園内研修を設け研修内容を教職員で共有し保育に生かせる工夫をしている。 ○ 研修後は報告書の作成を徹底している。 ○ ティーム保育として教師が他のクラスに入り、クラス担任の保育を見学して、保育の意見交換をし職員全員で全園児を共通理解できるように、園児の個性を共有する時間を取っている。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画について	<p>週 1 回、固定曜日でカリキュラムに沿った音楽教室を行うことができたが、指導の内容や方法などをよりの確に子どもに指導していくために、音楽教室専任講師をいれ、年齢や時期、子どもに発達にあった内容を専任講師の指導のもと行うことで全園児に高い質の保育を提供できると考える。</p> <p>専任講師は、各担任と一緒に年間カリキュラムに沿って保育にあたり、1年の見通しをたて保育を行っていく</p>

<p>教師の資質指導向上にむけて</p>	<p>今年度同様、園内研修の年間計画を作成していく。</p> <p>○月 1 回の園内での職員研修を計画していく。研修内容は 6 つのプロジェクトチームにそれぞれのテーマを提案してもらうことで、プロジェクトの活性化、職員間での話し合いの充実、問題に対しての共通理解を深めることができるよう計画を行う。</p> <p>○夏休みの研修発表会をすることで、受けた研修を他の職員に伝え、さらに自分のものとし、職員全員で共有することができる。さらに実技等は、すぐに現場で使えるように、全員で習得していく。</p>
----------------------	---

5. 幼稚園関係者評価委員会よりの所見

特に指摘すべき事項は無く、妥当であると認められている

6. 財務管理

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

資料 1 園内研修計画

平成 28 年度 園内研修内容

月	内容
7月	フォトラーニング
10月	遊び込める環境とは～付箋を使って～ ～マンダラメモを使って～
11月	実技研修 ケーブルの巻き方
12月	連絡帳について①～付箋を使って
1月	連絡帳について②～付箋を使って
2月	行事について ～付箋を使って
3月	1年間のまとめ～付箋を使って

平成 29 年度 園内研修計画

時間 3時 30分～4時 30分

職員間で意見や考えを多く語り合う

平川グループ

平川 大久保 藤原 城田 重廣 岡崎

安河内グループ

小島 市原 川崎 有田 高木 矢幡

月	内容
5月	保育を語ろう
6月	新幼稚園教育要領について（主任研修会より）5月分
7月	新幼稚園教育要領について（主任研修会より）6月分
8月	夏の園内研修会
9月	実技研修
10月	保育用語を語ろう
11月	新幼稚園教育要領について（主任研修会より）10月分
12月	新幼稚園教育要領について（主任研修会より）11月分
1月	実技研修
2月	
3月	新幼稚園教育要領について（主任研修会より）2月分

資料 2 園内研修 報告書

第5回 園内研修 平成29年10月25日

参加者：大久保・城田・藤原・重廣・岡崎 + コーディネーター平川

新幼稚園教育要領について

- ◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の視点)について重点的に考え、運動会を経て子ども達の獲得した育ちについて、子どものエピソードと視点を繋げて考えていく。
- ◎フォトラーニングを活用した対話、また対話の中から10の視点について見つめ直す。



新幼稚園教育要領をひもとき、写真で語る自園の「幼児教育」を見出していく

理由

5領域のように、10の視点を自分自身の中で自然に整理出来るよう、学びを深めることを目的とした。子ども達の様子を10の視点と結びつけ、評価し次のカリキュラムや目標へと繋げていく。

準備するもの

研修会資料

研修内容

- ①幼児期の終わりまでに育って欲しい10の視点をいくつ覚えているかの確認。
- ②運動会を経て、子ども達の成長した所や獲得した力について書き、その子どもの姿がどの視点に当てはまるかを考察し発表する。
- ③発表の内容を聞き、他の視点に当てはまるものはないか全員で対話を基に考察する。
- ④フォトラーニングの研修では、各先生が用意した10の視点に基づいた写真について説明し、その後他の視点からみた場合どのような10の視点が当てはまるかを考察する。

コーディネーター感想

前回までの研修で、行った10の視点の見直しを行い、少しずつ新教育要領への理解が深まっていくように感じました。私たちが日々行っている保育の中には、10の視点に当てはまる成長や獲得される力を得ている事を学びました。また、その育ちは沢山の視点が折り重なり子ども達は日々伸び伸びと成長していることを学んでもらえたのではないのでしょうか。このように、何気ない日々の一場面に焦点を当て、考察することで子ども理解を意識的に行う訓練を重ねる事が大切なだと学びました。

また、研修でも対話の中で出たように、職員それぞれの視点がありそれを対話基つき共有していく事が何よりも大切なのだと感じる事ができた研修会でした。

研修中写真



真剣な表情で話を聴いてます。
10の視点をどのくらい
覚えているでしょうか？



読み中。



エピソードトーク。
運動会での子ども達の
成長を感じる先生達。



どのような会話が繰り広げられて
たのか・説明する岡崎先生！
私たちの知らない子ども達の
一面を知ることが出来ました。



このように一場面を切り取ると、
新たな子ども達の成長が
見えてきました。



資料3 夏の研修発表 担当表

研修発表時間割				
25日(金) 場所 れんげ1組にて				
時限	担当者	研修内容	準備するもの (担当者)	準備するもの (受講者)
9時～10時	園長	君営及び教育の 「理念」「方針」「目標」とは		筆記用具
10時05分～ 11時05分	小島	気になる子や障がいのあるこの保 育実践と家庭支援について	資料・冊子	筆記用具
11時10分～ 12時10分	重廣	雨の日に使える新聞遊び	新聞 資料	筆記用具
1時～2時	城田	絵本と保育	資料	筆記用具
2時05分～ 3時05分	岡崎	新聞紙・折り紙で遊ぶ	新聞・折り紙・ 資料	筆記用具
3時10分～ 4時10分	大久保	年齢やhappaつに応じた保育内容や 関わりを理解する	資料	筆記用具
28日(月) 場所 れんげ1組にて				
時限	担当者	研修内容	準備するもの (担当者)	準備するもの (受講者)
9時～10時	平川	子どもの主体性について	資料	筆記用具
10時05分～ 11時05分	有田	四季を感じるわらべうた	資料	筆記用具
11時10分～ 12時10分	高木 矢幡	打楽器の基本的な奏法	楽器 資料	筆記用具
1時～2時	藤原	保護者への働きかけと支援	資料	筆記用具
2時05分～ 3時05分	川崎	すぐにできる楽しい合奏	資料	筆記用具
3時10分～ 4時10分	市原	太陽が3つだってかまわない	絵具	クレパス 筆記用具

研修風景

